

## I 仏道の意味③

本願寺派布教使・行信教校講師 山本攝叡先生

道元禪師が悟りの境地に達したことは、同じ境地に達したお師匠の如浄さんにはわかりました。「あなたは1つの大悟(大きな悟り)を得られましたね」とお師匠さんが認めてくださいます。

その頃、お師匠さんはずいぶん高齢で、ほとんど死の床についておられます。お師匠さんの看病をして、最期のお世話をさせてもらってから帰りたいと道元禪師は思っていたら、お師匠さんは「あのお釈迦様でさえも亡くなられたのだ。あなたが私の世話をしようがしまいが、私の命が終わる事は変わらない。我々命を持って生まれてきたものが、いずれ亡くなっていくのは当たり前なのだ。それよりもあなたはしなければならないことがある。一刻も早く日本へ帰って、私たちが伝えてきたこの教えを向こうで伝えてくれ」と追い返すように言いました。



やはり修行を超えてこられた方の姿ですね。腹が1つ座っています。私たち病気になって心細かったら、誰かそばにいて世話をしてもらいたいと思うのですが…。

そして道元禪師は28歳で日本へ帰って来られます。

そこまでしか本を読んでいませんので、そこから先はまた機会があったらお話申し上げます。

私たちは「菩薩道」や「仏道」というと、道元禪師のように立派な祖師方のお姿を思い浮かべるのですが、実は私はこの頃、この菩薩道というのはそれほど遠くにあるものではなくて、我々の1日1日の歩みも菩薩道でなければならないと思うのです。

言い換えると、先ほど言いました菩薩というのは、悟りを求めて歩む者です。皆さん方、お念仏されているじゃないですか。それは、悟りを求めて歩いていらっしゃる姿ですよ。だから他人事じゃなかったのです。我々自身もやはり菩薩道を歩ませてもらっています。

善導大師という方は、念仏することが最も優れた行であるということ、いつでもどこでもどんな姿でもできるということに見出していかれたのです。特別な行をしようと思ったら、特別な場所ではなければなりません。禅宗でも、基本的には禅堂で座禅するのですが、別に座禅するのは禅堂でなければならないことはありません。庭の石の上でもどんな場所でも構わないのです。座禅しようと思ったら、そこで座禅をします。

私も禅宗のことがわかっているわけではないのですが、座禅していたら雑念が湧いて来ないかということ、そんなことはないと思います。座禅しているから雑念は全部ふっきましたって言われたら、私はかえって信用しないですね。

自分の姿と照らし合わせると、我々だってお勤めしている最中でも、お話ししている最中でも1つのことに心を集中なんてしていません。我々お念仏していても雑念の中ですね。でも逆に言えば、そのような姿の私がおのま、いつでもどこでもできる行がお念仏だったのです。

2021年3月1日「正宣寺春季彼岸会」より

YouTube「浄土真宗本願寺派 光寿山 正宣寺」チャンネルにて配信中